

## もっと知ろう陶 32. 方言昔話(4) 嫁ご岩

むかしのお、大川村と水上村を股にして、村ん人が飼っとる鶏やうさぎを襲うかんかなあ狐がおったげな。

この狐は賢くての一。朝、鳥小屋に行くがさあと羽根がちったあ落ちとるぐらいで、そお変わっくらへんけど、鶏の数を数えてみるがさあと減っちよる。まあ一、音もなく獲っていったら一利口な狐だった。

わやされる村人たあが罾や寅鉢みを仕掛けてもあかすか、ちっともかからへん。そこで村人たあは、村いっちゃんの鉄砲撃ちに頼むことにしたげな。頼まれた鉄砲撃ちは、ある雪の降る晩げしな、野山は雪で獲物も獲れんだろうから今日あたり現れるぞと、鳥小屋の近くで息を殺おて待とつるがさあと、雪の上で何んかが動いた。よーく見るがさあと、やはり狐だ。狐はこっちを向いとるが、こちらには気付いとらんみたいだ。

鉄砲撃ちは目で距離を測りながら、狐に目がけて「ドン」。手ごたえがあった。狐は弾丸が当たった瞬間に、たあもない勢いで飛び上がり、でんぐりかえったのが見えた。鉄砲撃ちは、ちやっと駆けつけたんだけど、ど訳か血の跡はあるけど狐の姿がありやへん。確かに当たった筈なのに…。外はもう暗一なってきたよーるから、その日は引き上げることにした。翌朝、探あたけんど、夜降った雪で、血の跡も足跡も分からんくなっておった。

それからしばらくは狐の姿を見んかったが、ある日から早朝に平（今の学校前）の大きな岩の前の道を通ると、すごーきれいな娘が、岩の上にとよこんと座って、道側に足を投げ出して「たびはかしよな」「たびはかしよな」と、とても悲しそうな声で呼びかけるようになったんだと。

この娘は、陽がのぼるがさあとどっかにいっちゃう。しばらく、こんなことが続いたけど、そのうち娘の姿もぜんぜん見られんようになってしまった。

村の若い衆たちが「あのきれいな娘はどこに行ったんじゃ」と、大きな岩に梯子をかけてあがってみるがさあと、年くった狐が死んどったそうじゃ。よく見るがさあと、その狐は足にどーら一けがを負とったと。おそらくは狩人に鉄砲で撃たれた狐なんだろう。

狐は足袋を履きや、醜さも隠れ、野山を走った時の痛みも和らぐと思ひ、娘の姿に化けて人間相手に「たびはかしよな」「たびはかしよな」と呼びかけたんだらう。

